
第54回ギャラクシー賞上期選考
メ〜テレドキュメント「それでも、働く〜ALSになったJリーグ社長〜」
テレビ部門で奨励賞を受賞

第54回ギャラクシー賞の上期選考が行われ、メ〜テレが制作した『メ〜テレドキュメント「それでも、働く〜ALSになったJリーグ社長〜」』がテレビ部門の奨励賞に選ばれました。

ギャラクシー賞は、放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、優秀番組・個人・団体を顕彰するために、1963年に創設されました。審査は、放送批評懇談会会員から選ばれた選奨事業委員会によって行われます。

第54回ギャラクシー賞 上期 テレビ部門【奨励賞】

メ〜テレドキュメント「それでも、働く〜ALSになったJリーグ社長〜」

放送：平成28年5月26日（木） 午前1時59分～午前2時59分

プロデューサー：村瀬史憲 ディレクター：久須美 慎

カメラ：横山大輔 音声：川島敏史 取材：徳満陽介 編集：鈴木建晴 音効：河合亮輔

【内容】

試合の成績は毎年、最下位争い。観客動員数の伸び悩みなどによる経営難から、存続の危機に陥っていたJリーグ（J2）のFC岐阜に救世主が現れる。岐阜県出身で国際的に金融ビジネスを手掛ける「Jトラストグループ」の藤澤信義社長だ。藤澤がFC岐阜の建て直しのために派遣したのが、当時35歳の恩田聖敬（おんださとし）だった。



岐阜県山県市出身の恩田は、スタジアムで結婚式を行うなど、サッカービジネスにエンターテインメントの要素を持ち込むことでFC岐阜の躍進を図ろうと試みた。

しかし就任の年、恩田の体に異変が現れる。手足に違和感を覚え、精密検査の結果、難病「ALS」と判明する。日を追うごとに悪化していく病状をカメラは捉える。それでも社長であることを貫こうとする恩田。その姿はファンや同僚たちに、どう映ったのだろうか。恩田に引導を渡したのは、彼を指名した藤澤だった。不完全燃焼でFC岐阜社長を退いた恩田。彼が「次の道」として選んだのは、新会社の設立だった。

以上